

kouzashoukai

講

座

異文化集団が琉球人の起源を求めて集う研究室

琉球大学大学院医学研究科 人体解剖学講座 (解剖学第一) 教授 石田 肇

講座名の通り、教育では正常解剖を担当しています。琉球大学でいご会、学務課と連携し、献体を収集し、学生教育を行っています。学生とは、1、2年次から、親密に付き合いのある講座です。国際化に対応できるように、Gray's Anatomy for Studentsを使用し、試験問題も英語です。結構、学生も対応できることが分かりました。

私、石田肇は北海道出身で、山形大学医学部を卒業後、長崎大、札幌医大を経て、平成10年に琉球大学に赴任しています。研究は、形質人類学です。先史時代から現代にいたる日本列島の人々の生活誌復元と系統を研究しています。数年前までは、シリア国でネアンデルタールの発掘調査にも参加していました。

教室員を赴任順に紹介しましょう。泉水奏助教は、ホヤ卵と精子を試料として、発生生物学の研究を進めています。米須道子教務職員は、教室内のすべての事務仕事をこなしています。また、遺伝サンプルの採取に活躍しています。譜久嶺忠彦技術専門職員は、献体業務を担当し、また、沖縄県戦没者遺骨鑑定や、北大でのアイヌ人骨整理を続けてきました。

木村亮介准教授は、テニュアトラックで応募してきた優秀なゲノム人類学者です。形態解析も得意で、形態とゲノムの関連研究を進めています。若手研究 (A) や基盤研究 (B) を獲得し、新学術領域研究の班員でもあり、鋭意、研究を進めています。川口亮技術専門職員は献体業務をこなし、ヒトのゲノム研究の研究補助をしながら、奨励研究を獲得し、魚類ゲノムの研究を行っています。

古代ゲノム解析を専門とする佐藤丈寛学振PDは、琉球大学では、琉球人ゲノムの研究や形態との関連を見えています。山口今日子博士研究員は、皮膚色のゲノムを研究していて、また、新学術領域研究「交替劇」では認知・行動の遺伝的基盤を研究しています。獣医系の渡邊千晶博士研究員もヒトゲノム解析をするとともに、形態との関連研究を進めています。イカ研究の杉本親要博士研究員は、皮膚細菌叢の計測を行っています。

大学院生としては、外科医の早坂研さんは気管

支動脈の変異を調査中。PTの諸見里恵一さんが全身の関節可動域を研究、歯科の山内忠さんは頭部X線規格写真を用いて、琉球人の形態を研究しています。また、鍼灸の鈴木信司さんは古人骨の関節症性変化を調査しており、物理出身の米須学美さんは、琉球人の手形態とゲノムとの関連を調査中。元助教であった人類学者、深瀬均北大特任講師は、非常勤講師として、かなりの頻度で沖縄を訪れ琉球人骨格形態などの研究を進めています。修士課程修了の宮里絵理技術補佐員は、琉球人の顔面形態の研究を進め、最近、論文を出版しました。おめでとうございます。

主な研究の紹介をします。まずは、琉球人の遺伝的起源と形態解析です。遺伝学的な解析は木村准教授を中心として、佐藤、山口、渡邊の博士研究員ががんばっています。これまでも、東大、北里大との共同研究で、琉球人の遺伝子を解析しましたが、さらに、琉球列島内のゲノム多様性を解明してきました。加えて、皮膚色、顔面、からだの肉眼的解剖形態や疾患感受性等の形質における遺伝的基盤の研究を進めています。25年度から、石田が代表者として基盤研究 (A) 「ヒト形態のデジタル解析と遺伝的基盤」を獲得し、放射線科との共同研究を進め、龍康殿あずさりサーチコーディネーターが試料収集を行っています。

もう一つは、北大、アルバータ大等と共同で北方の人類学研究を進めています。これは、基盤研究や先端拠点形成事業の一つです。このように多種多様な人材が集まり、日々研究に励んでおります。詳しくは、ホームページをご覧ください。
<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/anatomy1/>

